



【わずかな献身と感謝をとおして働かれる神様】
 聖書:ヨハネの福音書6章1-13節/ 暗唱聖句:ヨハネの福音書6:51

ジョンナムチャール
 説教者: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！お元気でしたか。

今日の聖書の本文であるヨハネの福音書6章をみると問題に直面している弟子たちをみることができます。つまりイエス様にやってきて御言葉を聞いている多くの人々を食べさせなければならない問題に直面しています。

イエス様がテベリヤの湖の向こう岸へ行かれたとき、多くの人々が追いかけてきました。マタイの福音書14章とマルコの福音書6章の内容を今日の本文であるヨハネの福音書と関連付けて調べてみると、イエス様が多くの人々に教えていたときであることがわかります。

“イエスは、船から上がられると、多くの群衆をご覧になった。そして彼らが羊飼いのいない羊のようであることを深くあわれみ、いろいろと教え始められた。”(マルコ6:34)

イエス様が弟子たちの話を聞いてまずピリポに問います。どこに行ってパンを買って人々に食べさせるのかと。するとピリポはどこでという質問には答えないで、200デナリをもっていても人々を食べさせることはできないと答えます。(ヨハネ6:5-7)。

ピリポはとつても計算の速い数学論者だったようです。イエス様の弟子であったピリポはいつも問題をまず自分の頭で、自分の人間的計算で解決しようとしています。もちろん問題を正確に診断し、現実的な解決策を模索(もさく)するのを無視してはいけません。しかし人生のいろんな問題が数学的計算だけで解(と)かれる訳にはいかないことを我々はよく知っています。弟子たちは多くの群衆を食べさせる食べ物を自分たちにはないことを確信しています。

いまの問題を解決するほどのお金もなく、そんな能力もないと確信しています。そういうわけで、弟子たちはイエス様に言わせて、群衆を早く解散させて自分たちでなんとか食べ物を解決するようにとお願いをしたのです。その時イエス様の反応は違います。弟子たちに向って言われます。

「彼らが出かけて行く必要はありません。あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」(マタイの福音書14:16)

ここで弟子たちの観点とイエス様の観点の違いがあらわされます。弟子たちは自分たちの力と計算ではあの群衆を食べさせるのは不可能だと思います。反面、イエス様は弟子たちこそが群衆を食べさせることができると信じておられます。彼らの力で、彼らが持っているもので解決できると信じておられたのです。弟子たちはイエス様の話を聞いてとんでもないことだという反応を見せます。なぜなら弟子たちが持っているものは一人の子どもが持って来た大麦のパン五つと小さな魚二匹だったからです。(ヨハネ6:9)

しかし、弟子たちはイエスに言った。「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹よりほかありません。しかし、こんなに大勢の人々では、それが何になりましょう。」するとイエス様は「それをここに持って来なさい。」(マタイ14:17-18)と言われます。

ここでまた弟子たちの観点とイエス様の観点の違いが表されます。弟子たちは大麦のパン五つと小さな魚二匹を大した物ではないと思っています。しかし、イエス様はその大した物でないように見えている物でさえもその中に含まれているすばらしい潜在力(せんざいりょく)みておられます。今日我々も礼拝をとおして新しくされるべきことがあればそれは我々の観点だと思います。神様は小さい物を小さいものと思われません。神様は小さい物をとおして多くの人々を食べさせたがっておられます。五つのパンと二匹の魚は決して小さいものではありません。結局イエス様はお言葉のとおり、五つのパンと二匹の魚をとおして男だけで5千人、女と子どもを合わせると2万人以上の大群衆を食べさせました。そしてそれだけではなく十二のかごまで残しました。神様はこの箇所をとおしてもう一度小さいものの力、小さいものの価値を我々に教えて下さっています。

1. 神様は小さい子供の献身をとおして奇跡を見出されます。

イエス様は弟子たちに“あなたがたが食べ物をあげなさい。”と言われました。イエス様はこの出来事をとおして弟子たちに大きい問題を解決する原理と方法を教えようとした。我々はよく問題が生じるとその問題の解決を遠くから探す傾向があります。しかし神様は問題の解決はとつても近くにあるのよと教えてくださいます。

まず、弟子であるアンデレがイエス様に紹介したのは‘一人の少年’が持っているおベントウでした。その少年は五つのパンと魚二匹を持っていると言います。イエス様はこの少年の献身をとつても大切に思われました。考えて見て下さい。もし、この小さい子どもがいなかったなら大群衆を食べさせられる奇跡は起こらなかったかもしれません。

愛する信仰の家族のみなさん!

神様の御前ではだれも小さくありません。我々は時々子どもをやたらにあつかう傾向があります。子どもたちをさげすむ傾向があります。しかし、イエス様は違いました。子どもたちを大切にされました。子どもたちに配慮する心を大切に思われました。群衆の中、多くの大人がいましたが、その小さい子ども一人だけが自分のお弁当を持ってきました。それはひもじくなっている人を配慮する子どもの愛でした。しかしイエス様は弟子たちに教える時、子供を立てて教えました。どっちがえらいのかもめている弟子たちのために子どもを立てて謙遜を教えました。

“「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。」”(マタイ18:3)

イエス様は子どもたちを邪魔者扱いをしている弟子たちを叱りながら御国は子どものような人たちのものだと教えました。

“そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちが連れて来られた。ところが、弟子たちは彼らをしかった。しかし、イエスは言われた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」そして、手を彼らの上に置いてから、そこを去って行かれた。”(マタイ19:13-15)

神様は子供の小さい献身をとおしてでも偉大な御業をなされることを覚えましょう。神様は年令に問わず、献身された人を通して働かれます。

例え) アメリカのフィラデルフィアにテンプル教会が建てられた時のことです。

教会堂が狭くて一人の少女が礼拝をささげず戻ってきました。大人たちでさえ礼拝をささげるのに狭いので、子どもたちは入る席がないという理由でした。少女はその話を聞いて、家に戻ってきて待っている間、病気になって死んでしまいました。少女が死んだ後まくらの下で57セントと手紙一通が発見されました。その手紙はテンプル教会のロシヨエルH.コンウエル(Russell H. Conwell)主任牧師宛の手紙でした。“先生、私は教会に行きたいですが、礼拝堂が狭いため空き席を待っている子どもです。食べたいものも買わずにあつめたお金ですので、これで礼拝堂をたててほかの子どもたちもみんなで礼拝をささげることができるようにさせてください。”

この手紙は少女のお葬式の時信徒たちの前で読まれ、聞いている人たちがみな涙なしにはいられませんでした。これをきっかけにテンプル教会は大きい教育館を建てました。教会が成長しながら良いサマリヤ病院も建てられ、その後名門のテンプル大学も設立されました。その後この話は‘57セントの奇跡’として人々に知らされました。

2. 神様は我々にある小さい物をとおして奇跡を行なわれます。

愛する信仰の家族のみなさん! 神様は我々の近くにいる人をとおして我々を助けてくださいます。子どもたちでも関係ありません。今日の奇跡は小さい子どもをとおして始まりました。神様は子供を通してでも我々を助けてくださいます。ですから、我々は心を開き、霊的な目を開いて神様の観点を持たなければなりません。神様の目で人をみななければなりません。我々に知っている人がいないと言ってはいけなしいと思います。普通一人のまわりには最低120人以上の知り合いがいると言われています。家族、親戚、友達、同窓、教会員、直接、間接的に知っている人々を数えてみると120人も越えるかも知れません。そんなわけで一人に親切に接することは120人に親切に接するのと同じです。そして親切に接した120人が一人あたり120人と知り合いだとすると14,400人に増えます。このように人間関係は糸のねたかたまりのようにつながっています。子どもだとしてもその背後には多くの家族がいることを覚えなければなりません。神様は我々の近くにいる人を通して助けてくださるだけではなく我々が持っている物をとおして助けてくださいます。何度もメッセージの時間に繰り返し申し上げていますが、我々が持っているものはなにであるかを知らなければなりません。そしてそれをイエス様に申し上げます。弟子たちはイエス様に彼らが持っているものを申し上げました。“しかし、弟子たちはイエスに言った。「ここにはパン五つと魚が二匹よりほかありません。」(マタイ14:17)ここで大切なのは“我々にあるもの”です。‘われわれにないもの’ではありません。イエス様は弟子たちに“それをわたしに持ってきなさい”と言われます。(マタイ14:18)”

今日の御言葉を黙想する時一番心に残される御言葉がありますが、それは“あなたがたが食べ物をあげなさい。”“それをここに持ってきなさい。”神様は我々にあるものを大切に思われます。それを自分ひとりですべて持っているはいけません。それを神様に持ってくるようにと待っておられます。

3. 神様は感謝をとおして奇跡を起こされます。

最後に五つのパンと二匹の魚がイエス様の御前に届けられたとき、イエス様はどうされたのかをみてみましょう。イエス様がされたのはそれを持って感謝の祈りをささげられました。その後弟子たちを通して人々にパンと魚が分け与え始めたら、すばらしい奇跡が起こりました。男だけで5千人が食べました。女と子どもを含めると2万人以上が満腹した後でも残ったのが十二のかごでした。

“そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほいだけ分けられた。そして、彼らが十分食べた時、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出てきたパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。(ヨハネの福音書6章11-13)”

感謝は奇跡を起こすことのできるほどの力があります。感謝はいただいたのをいただいたと言い表すことです。そして感謝はいずれいただくことをすでに受けたと信じて感謝することです。感謝は豊かさの源です。

また我々が覚えるべきことは感謝の対象です。感謝をささげるべき対象は当然一番大切な神様です。神様に感謝をささげるとき、神様はくすしい奇跡で報いてくださいます。感謝自体が大きい祝福であり、幸福です。

大麦のパン五つと小さい魚二匹しな持ってないことつぶやくこともできるし、大したものではないように思うかもしれませんが。そんなものをわたしに持って来たのかと言われることも考えられます。しかし、イエス様は決してそのように言われる方ではありません。むしろそれに感謝をささげておられます。我々は感謝する時祝福を受けます。感謝する時幸せになります。幸せになりたいなら感謝してください。幸せとは感謝から始まり、感謝は幸せを作り上げます。

実際、五つのパンと魚二匹は貧しいお家の子どものお弁当に過ぎないかもしれませんが。もし、大麦のパンをお米のパンと比較し、魚を牛肉と比較するなら感謝することはできなくなり、かえて不幸になってしまうと思います。大切なのは我々に与えられたのを感謝するのか、もしくはつぶやくのかによって状況は180度変わってくるということです。感謝するとすべてが新しくなります。感謝するとすべてが価値あるものになります。

愛するみなさん! 感謝は謙虚な心から始まります。イエス様は神様です。神様の御子です。王の王です。なのに、大麦のパン五つと小さい魚二匹を持って感謝の祈りをささげました。我々も当然感謝をささげるべきではないでしょうか。そうすると我々も幸せになり、その幸せを伝えながらほかの人を助けることができるようになります。

<神様の御手に持ち上げられた時一番価値あるものになります。>

みなさん! 大麦のパン五つと小さな魚二匹が子どもの手から弟子たちの手に、そしてイエス様の手に運ばされた瞬間くすしいことが起こりました。我々の生涯もだれの手にゆだねられているかによって我々の未来は違ってきます。

例)ある日曜日の夜二人の若者が賭博場に向っていました。ところが、たまたま賭博場のとなりには小さい教会がありました。何も考えないで賭博場に入ろうとした二人の青年の一人が偶然教会の入り口に書かれている日曜日の説教の題目に目が留まりました。そこには“罪の代価は死である。”と書いてありました。その箇所を読んで青年の心に突然、罪の意識が生じられました。彼はほかのともだちに“今日賭博場に行かないでまず教会に行ってみよう。”といいます。しかし、その友達は“一度賭博に行くと決めたら行くべきだし。教会は何。いきなり!”と一発で断ります。結局、一人は始めの思いのまま賭博場に向い、一人は教会に行きました。その日、教会に入った青年はイエス様を受け入れ、新しい人生を過ごしました。その時改心した青年はそれから30年後、アメリカの大統領になり、その名はアメリカの22代大統領クリブランド(S.G.Cleveland)です。クリブランドが大統領に就任した時、30年前、賭博場に向っていた友達は刑務所で自分のおさなじみの友だちがアメリカの大統領に就任するという記事を読んでいました。神様の御手は偉大です。小さい物をとおしてもっと価値を与え、豊かさを創造される御手です。神様はすべてを信仰によって解決されたがっておられます。我々が持っている物を神様に持って行って神様の御手におきましょう。何より、感謝をささげる生活を身につけましょう。大麦のパンを上げて感謝の祈りをささげたイエス様は人類のいのちのパンとして来られました。

(ヨハネ6:35-“イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。」)

最後の晩餐でイエス様はパンを取った後、感謝の祈りをささげました。そのパンはイエス様の御体を意味します。杯をあげて感謝の祈りをささげました。その杯はイエス様の血を意味します。聖餐は(ユカリスト)です。これは‘ユカリスティア’から出た言葉で、‘感謝をささげる’という意味です。聖餐に参加するということはつまり感謝をささげることです。十字架のうえで我々のために犠牲を払ってくださったイエス様の恵みに感謝をささげることです。

<結論>

“私には知り合いがいません。私の周りには私を助けてくれる人がいません。私にはもっているものがなにもありません。”と言わないで下さい。神様は奇跡を起こされる時我々が知っている人、我々の持っている物を通して働かれます。実際に、弟子たちにはイエス様がそばにおられました。しかし、弟子たちはその事実を忘れていました。我々も忘れてはいけません。我々のそばにイエス様がともにおられるという事実を忘れてはいけません。自分たちが持っている小さいものでも感謝をもって主の御手にささげられたとき、私もみなさんもほかの人を食べさせ、助け、生かすことにより、神様に栄光をささげる信仰の主人公になると信じます。アーメン